

MARANTZ「MODEL 40n」



審査員特別大賞



特別大賞



金賞*



テレビやレコードもつながる

リビングオーディオを革新 次世代のプリメインアンプ

ハイエンドのピュアオーディオ・クオリティでテレビの音を——。
リビングで楽しむオーディオのスタイルを新提案するマランツの「MODEL 40n」は、
映像音響部会とピュアオーディオ部会の両方で高く評価されました。その魅力を解説します。

*プリメインアンプ(20万円以上30万円未満)



プリメインアンプの枠を超えたオールインワンシステム

VGP審査員 岩井 喬

新時代の到来ともいえるモダンなデザインを取り入れ、リビングにもフィットするピュアオーディオコンポーネントとして仕上げられているマランツの新たなプリメインアンプ「MODEL 40n」。VGP2022 SUMMER映像音響部会において、オーディオ分野を代表する際立ったプロダクトとして審査員特別大賞を、ピュアオーディオ部会においては特別大賞を獲得しました。その高評価をもたらした要素として重要な理由となるのが、テレビを中心としたリビング環境でも最高のサウンドを楽しめるARC対応HDMI入力端子を装備したこと、そしてハイレゾストリーミングを手軽でありながら高音質に楽しめる独自のネットワークモジュール技術「HEOS」の搭載が大きいです。

さらにMM型対応フォノイコライザーも内蔵し、レコードプレーヤーも接続できるほか、USBメモリーや外付けHDDから直接192kHz/24bit・PCM&5.6MHz・DSDまでのハイレゾ音源の再生も可能です。そうしたピュアオーディオとして万全なクオリティを持つアンプですが、普段観ているテレビ放送番組もピュアオーディオ品質で味わえるというわけです。上質なデザインとも相まって、まさに生活に根差したプレミアムリビングオーディオという呼び名に相応しいモデルです。

MODEL 40nにおける高評価の裏付けとして、その技術面にも目を向けてみましょう。まず一般的に音質としての評価があまり高くないHDMI入力にメスを入れています。本機では電源供給の強化や低ノイズ化、接続経路及びグラウンドの見直しを図って高音質化を実現。これに加えCEC用信号だけをHDMIインターフェースで受け取りつつ、デジタル音声信号についてはそこを経由させず、直接DIRセレクターに伝送させる、音声のショートシグナルパスも達成しています。過去の製品とは一線を画すHDMI伝送のクリアさと精緻なサウンドは注

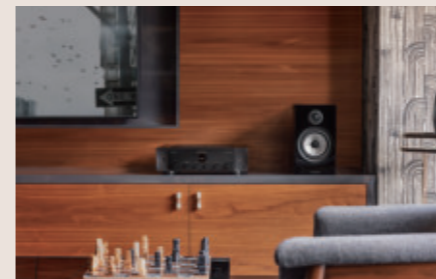
目に値するクオリティです。

同様のデザインを持つ高剛性のキャビネット構造を取り入れた「MODEL 30」との大きな違いは、マランツがこれまで培ってきた技術を結集させた、純粋なアナログアンプ構成にあります。これは優劣を競うものではなく、音質の個性で選べるよう緻密に調整されたもの。MODEL 40nには瞬時電流供給能力が68Aという強力なフルディスクリット構成の電流帰還型パラレルプッシュプル・パワーアンプを搭載。これに応えるため、クラス最大級の大容量トイダルコア型トランスを備えた電源部には18000μFという大容量のエルナー製カスタムブロックコンデンサーも取り入れるなど、本格的なピュア志向の構成を誇ります。また電子ボリュームに高精度な日清紡マイクロデバイス製「MUSES 72323」を用いた可変ゲイン型ボリューム回路と新開発の低歪み仕様独自の独自モジュール「HDAM®」を備えたプリアンプによって、高S/Nで伸びやかなサウンドを獲得しました。

本機はMODEL 30譲りのキリっとした解像度のよさ、見通しの深い空間表現性の高さを持ちつつも、音像をより滑らかに、音運びをスムーズに描く耳当たりよいサウンド傾向が持ち味です。きめ細やかな管弦楽器の潤いと艶、ボーカルのリアルな口元の動きにも耳を奪われます。真剣に音楽と向き合って聴くスタイルにも応えますが、テレビやストリーミングのようにBGM的な“ながら再生”でも過度に主張せず、質感よく丁寧に落ち着きある音を届けてくれるところも美点です。

リビング環境に向けたこれまでの提案から、さらにより一歩踏み込んだ本格的な音楽・映像体験を楽しめるツールとして、MODEL 40nはその中心に欠かせないプリメインアンプの枠を超えたオールインワンシステムといえます。

CHECK POINT



おしゃれで映えるルックス

レトロモダンなルックスは、マランツの原点ともいえる名機のデザインを現代的にリファインしたもの。所有する喜びを感じさせる美しさが、テレビの近くに置いてもおしゃれで映えます。



利便性の高いHDMI接続

ARC対応のHDMI入力端子を備えるため、テレビの音を受信できるだけでなく、CECコントロール機能によってテレビのリモコンだけで電源の入/切、本機の音量も調整できます。



ピュア志向の強い高剛性筐体

高音質を支えるシャーシ構造は高剛性を追求しています。素材にはスチールやアルミを採用しますが、アナログアンプのポテンシャルを発揮させるため厚さにもこだわるプレミアム仕様です。

プリメインアンプ

MARANTZ MODEL 40n

¥286,000(税込)

SPEC ●定格出力：100W+100W(4Ω/20～20,000Hz) ●音声入力端子：HDMI(ARC対応)×1、光デジタル×1、同軸デジタル×1、アンバランス×3、PHONO(MM)×1、POWER AMP IN×1、USB-AX1 ●音声出力端子：サブウーファアウット×1、RECアウット×1、ヘッドホン(6.3mm)×1 ●その他接続端子：LAN×1 ほか ●外形寸法：443W×130H×432Dmm(アンテナを寝かせた場合) ●質量：16.7kg





ネットワークCDレシーバー **MARANTZ M-CR612**

¥99,000(税込)

SPEC ●定格出力：50W+50W(6Ω/1kHz/THD 0.7%) ●音声入力端子：光デジタル×2、アンバランス×1、USB-A×1 ●音声出力端子：サブウーファアアウト×1、アンバランス×1、ヘッドホン(6.3mm)×1 ●その他接続端子：LAN×1 ほか ●外形寸法：280W×111H×303Dmm ●質量：3.4kg



プリメインアンプ **MARANTZ NR1200**

¥116,600(税込)

SPEC ●定格出力：100W+100W(6Ω/20~20,000Hz/THD 0.08%) ●音声入力端子：HDMI×5、光デジタル×2、同軸デジタル×1、PHONO(MM)×1 ほか ●音声出力端子：HDMI(ARC)×1、2.2chプリアウト×1 ほか ●その他接続端子：LAN×1 ほか ●外形寸法：440W×105H×378Dmm(アンテナを覆かせた場合) ●質量：7.9kg



約10年の時を経て

極まった「小型×Hi-Fi」 これぞ殿堂入りモデル

「小型×Hi-Fi」の設計思想を貫き約10年。M-CR612の高い完成度は殿堂入りに相応しいです。

テレビの音をHi-Fiに

ジャンルを築いた新発想アンプが 殿堂入りを果たす

テレビとオーディオを組み合わせる新発想。ありそうでなかったアンプが殿堂入りしました。



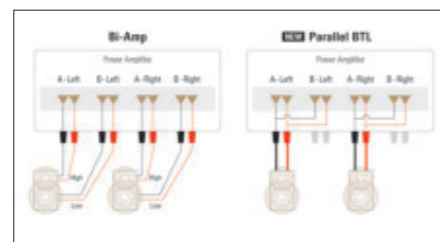
今も現役の先進性が 支持を集めた

VGP審査副委員長 鴻池賢三

オールインワンのミニコンボは、すでに確立したオーディオの一大ジャンルといえます。その中で「M-CR612」が圧倒的な支持を受けているのは、Hi-Fiオーディオとして妥協なく作りこまれ、正真正銘、本物のクオリティを実現していることに尽きます。一般的にミニコンボは、サイズやコストが優先され、音質は二の次になりがち。しかしマランツのM-CRシリーズは、音質を徹底的に追及。4chアンプによるバイアンプ駆動やパラレルBTL駆動はマニアックともいえる領域で、マランツのフィロソフィーとプライドが感じられるものです。M-CRシリーズの原点である「M-CR502」の登場(2008年)から歳月にして約10年、世代として5代目にあたるM-CR612は、同社がハイエンドオーディオで培ったノウハウを惜しみなく追求し、回路構成から採用パーツまでHi-Fiと名乗るに相応しいものに仕上がっています。機能面でも独自のネットワーク対応システム「HEOS」を搭載し、Amazon Music HDといったハイレゾストリーミング再生にも対応。今後も現役を張れる先進性が頼もしいです。VGP審査員が認める高音質、ユーザーの厚い支持を証明するロングヒット。殿堂入りも納得の名機です。

殿堂入りに相応しい「こだわり」

① ハイコンボ以上のHi-Fi設計



内蔵の4chアンプを高域用と低域用で分けて駆動する「バイアンプ駆動」、4ch分のパワーを2chの駆動に活用する「パラレルBTL駆動」など、マニアも驚くHi-Fi仕様が人気になったひとつです。

② 美しいデザイン

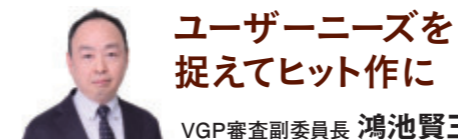


コストに制約のあるモデルですが、Hi-Fiの品格をもったデザインを継いでいます。この高級感のあるデザインも魅力です。

③ 多彩な音楽再生



CDやラジオはもちろん、音楽ストリーミング配信の対応、AirPlayやBluetooth機能も搭載。スマホとの相性も抜群です。



ユーザーニーズを 捉えてヒット作に

VGP審査副委員長 鴻池賢三

「NR1200」が絶大な人気を得ている理由は、ずばり「ユーザーが必要としていたモノ」を具現化したことに尽きます。AVアンプは機能面で成熟した感がありますが、一般的な家庭のリビングには機能もサイズも過ぎる感も。その一方、HDMI入力を持たずテレビとの親和性に欠けるプリメインアンプは、音質がよくても設置しにくい。こうした両者の「いいとこ取り」をしたのが、NR1200という訳です。しかし、この突然変異ともいえる形態は偶然の産物ではありません。マランツが始祖ともいえる薄型AVアンプをベースに、約10年に渡って取り組んできた経験から、ユーザーのニーズを把握。他社に先んじてHDMIセレクター機能を付けたHi-Fi用プリメインアンプを製品化した先見の明と英断、そしてユーザーへの新たな提案は評価に値します。また、同社のHi-Fiオーディオ技術を惜しみなく投入した本物のクオリティ、HEOSに集約される先進のネットワーク対応など、すべてが高水準に高められていることも極めて重要。それでいて手頃に抑えられた価格にも感心。ユーザーに支持される商品企画、専門家からも高く評価されるオーディオクオリティ、現役を張れる先進のネットワークおよびデジタル機能。まさしく殿堂入りに相応しいモデルです。

殿堂入りに相応しい「こだわり」

① HDMIセレクター付きステレオアンプ



薄型AVアンプのようにHDMI入力を5系統、出力を1系統搭載します。テレビだけでなく、レコーダーやゲーム機など様々な機器のサウンドも高音質再生できるのがNR1200の特長です。

② 薄型ボディ



薄型化が進むデザイン性の高いAVボードでも収納しやすい高さ105mmの薄型設計もポイントです。

③ Hi-Fiサウンド



フルディスプレイアンプを搭載するなど、設計はHi-Fiオーディオ製品と同様。高品位サウンドも人気となった理由です。